

気軽に散歩 (香川県・金刀比羅宮)

香川県西部の琴平町・象頭山の中腹に位置する金刀比羅宮。古くから海上交通の神として信仰を集め、「こんぴらさん」と呼ばれ親しまれてきた。江戸時代の金刀比羅参りは伊勢神宮への参拝に次ぐ人気を集めたという。

表参道を歩き始めると、すぐに長い石段が。この石段は本宮まで785段ある。老若男女問わず参拝者の多くが、竹や木製の杖をつきながらゆっくりと石段を登っていく。よく見ると参道脇の店舗で杖を無料で貸し出している様子。カンカンと石段を杖でつく音があちこちから聞こえてくる。それを聞きながら石段を1段ずつ踏みしめる。

しばらく登り、境内入口の大門をくぐると、平地が広がりひと安心。参道の脇には寄進した人達の名前の刻まれた石塔がずらっと並ぶ。ひとつひとつを見ていくと、海事関係者や水産関係者の名が多い。2メートルはありそうな石塔に迫力を感じつつ歩を進める。再び石段を登る。時折振り返り、眼下の景色で自分を励ます。見上げると首が痛くなるような急勾配が続き、40分ほどで本宮にたどり着いた。

現在の本宮は明治11(1878)年に再建されたもので、屋根は檜皮で覆われている。石段を登ってくる参拝者が途絶える事なく続く。本殿のすぐ横からは讃岐平野を一望できる。讃岐富士(飯野山)もきれいに見え、遠くには白い瀬戸大橋も。境内の清らかな空気と、眺めに疲れも吹き飛ぶ。

境内の絵馬殿には海事関係者から寄せられた個性豊かな絵馬が並ぶ。色とりどりの船の絵や写真が、目を楽しませてくれる。大きさも掌に乗るものから、1人で抱えきれないような物までさまざま。奉納した人も北から南まで幅広く、つい一つひとつ見てしまう。

古くから海事関係者の信仰を集め、讃岐平野の眺めが風光明媚な金刀比羅宮。石段登りは大変だが、本宮からの景色の美しさは格別だった。海の神様という事で、海事・水産関係者にはぜひ訪れてみてほしい。

「海員だより」